

おおい 自然園

余見の宝篋印塔に
使われた石材



上大井地区には、鎌倉時代の「余見の宝篋印塔」ほうきょういんとうがあります。高さが約1.5メートルあり、県内で建立した年がわかるものでは2番目に古く、町の重要文化財に指定されています。注目したいのは、この塔に使われている石材です。宝篋印塔があるのは曾我丘陵の山すそで、標高が40メートルくらいの地点です。この石塔に使われている石材は、どこから運ばれてきたのでしょうか。

以前、このコーナーで菊川支流に大きな石がたくさんあると紹介しました。上大井を流れる菊川から巨石を運び加工するのが最も楽そうです。しかし、余見の宝篋印塔で使われている石材を調べてみると、箱根火山の後期中央火口丘（神山や駒ヶ岳、二子山など）の溶岩で、菊川の巨石とは違うことがわかりました。トラツクなど無い時代に、どうやって箱根から巨大な石をこの場所まで運んだのか、またはどこかで加工して運んできたのか、謎が深まります。



▲宝篋印塔は鎌倉時代から造られ、お墓や供養塔として使用されました。

神奈川県立生命の星・地球博物館学芸員 山下浩之

【おおい自然園 HP】



や動物観察を
植物自然を
動植物観察を
の自然を
町、石、果など
井、石、果など
大虫の結載
▲大虫の結載